研究者・愛好家・教育関係者・環境アセス関係者の皆さま

鹿児島県産昆虫目録

Catalogue of the Insects of Kagoshima Prefecture, Japan

山根正気・幾留秀一 編著　A4 判（大型本）　846 ページ　定価（本体 13,000 円＋税）

2026年 12月下旬 刊行

生物多様性の宝庫・鹿児島
12,000 種を収録する昆虫相理解の根本基礎資料

南北 600km にわたる鹿児島県は、本土が暖温帯気候で、高地に冷温帯気候をもち、島嶼部には、暖温帯南限に近い屋久島、亜熱帯の奄美大島・徳之島と、二つの世界自然遺産がある。まさに生物多様性の宝庫である。本書は、43 人の専門家が結集し、県単位の目録としては異例のおよそ 12,000 種を収録する。



■ 執筆者

江平憲治，藤江隼平，藤沼 聡，福田輝彦，花田聡子，原田 豊，林 正美，幾留秀一，井上広光，紙谷聡志，金井賢一，河野太祐，木村正明，木野田 毅，小宮裕生，小溝克己，久原直利，藏滿司夢，丸山博紀，桝永一宏，松比良邦彦，松井英司，三田敏治，守山泰司，村尾竜起，中峯浩司，中村剛之，野崎達也，大原賢二，大原直通，坂巻祥孝，篠原明彦，相馬 純，竹松葉子，徳田 誠，津田勝男，塚田 拓，渡辺恭平，山本 優，山本 直，山根正気，山下秋厚，湯川淳一

■ 編著者

山根正気（Seiki YAMANE）
鹿児島昆虫相調査会顧問。1948 年生まれ。元鹿児島大学理工学研究科教授。農学博士（北海道大学），鹿児島大学名誉教授。所属会：日本昆虫学会，日本昆虫分類学会，日本在来種みつばちの会など。

幾留秀一（Shuichi IKUDOME）
鹿児島昆虫相調査会代表世話人。1952 年生まれ。元鹿児島女子短期大学学長。農学博士（九州大学），鹿児島女子短期大学名誉教授。所属会：日本昆虫学会，日本昆虫分類学会，膜翅目研究会など。

【予約受付中！】 定価 14,300 円（本体 13,000 円＋税）のところ **予約特価 11,440 円**（税込）

【予約特価期間】2026 年 12 月末日まで。

【注文方法】下記の申込用紙を FAX いただくか、南方新社宛にメール・お電話にてご注文ください。
請求書、郵便振替用紙を同封にて商品をお送りいたします。　＊送料無料

ご注文は **FAX 099-248-5457**

図書出版 南方新社
〒892-0873 鹿児島市下田町 292-1
info@nanpou.com
099-248-5455

予約特価・注文書

『鹿児島県産昆虫目録』 ISBN978-4-86124-579-4
C0645 ¥13000E
予約特価 11,440 円（税込）を【　　冊】

■お名前　（ふりがな）

■ご住所　〒　　ー

■電話番号　（　　）

■鹿児島県産昆虫類の目レベルにおける種数および総種数

No.	目	種数	No.	目	種数
1	PROTURA カマアシムシ目（原尾目）	15	16	PSOCODEA カジリムシ目（咀顎目）	26
2	COLLEMBOLA トビムシ目（粘管目）	38	17	THYSANOPTERA アザミウマ目（総翅目）	85
3	DIPLURA コムシ目（双尾目）	1	18	HEMIPTERA カメムシ目（半翅目）	1,287
4	ARCHEOGNATHA イシノミ目（古顎目）	5	19	COLEOPTERA コウチュウ目（鞘翅目）	4,249
5	ZYGENTOMA シミ目（総尾目）	1	20	RAPHIDIOPTERA ラクダムシ目（駱駝虫目）	—
6	EPHEMEROPTERA カゲロウ目（蜉蝣目）	43	21	MEGALOPTERA ヘビトンボ目（広翅目）	9
7	ODONATA トンボ目（蜻蛉目）	122	22	NEUROPTERA アミメカゲロウ目（脈翅目）	50
8	GRYLLOBLATTODEA ガロアムシ目（非翅目）	—	23	HYMENOPTERA ハチ目（膜翅目）	1,552
9	PLECOPTERA カワゲラ目（積翅目）	44	24	MECOPTERA シリアゲムシ目（長翅目）	10
10	DERMAPTERA ハサミムシ目（革翅目）	19	25	SHIPHONAPTERA ノミ目（隠翅目）	6
11	EMBIOPTERA シロアリモドキ目（紡脚目）	2	26	STREPSIPTERA ネジレバネ目（撚翅目）	8
12	PHASMATODEA ナナフシ目（竹節虫目）	9	27	DIPTERA ハエ目（双翅目）	1,330
13	ORTHOPTERA バッタ目（直翅目）	187	28	TRICHOPTERA トビケラ目（毛翅目）	124
14	MANTODEA カマキリ目（螳螂目）	9	29	LEPIDOPTERA チョウ目（鱗翅目）	2,669
15	BLATTODEA ゴキブリ目（網翅目）	52		合　計	11,952

—: 今回，記録が確認されなかった。

■本文組み見本



鹿児島県産昆虫目録

***Vespa simillima* Smith, 1868 ケブカスズメバチ**
***Vespa simillima xanthoptera* Cameron, 1903 キイロスズメバチ**
県内の分布　本土，大隅諸島（屋）。
参考　南九州では平地よりも山地に多い。巣物の天井裏や軒先，樹枝などに巨大な巣を造る。和名はE本昆虫目録（山根 2020）に従った。

***Vespula flaviceps* (Smith, 1870) アジアクロスズメバチ**
***Vespula flaviceps lewisii* (Cameron, 1903) ヤマトクロスズメバチ**
県内の分布　本土，大隅諸島（種・屋）。

***Vespula shidai* Ishikawa, Yamane et Wagner, 1980 シダクロスズメバチ**
***Vespula shidai amamiana* Yamane, 1987 アマミクロスズメバチ**
県内の分布　奄美群島（奄・加）。
ステータス　奄美群島固有。ややふつう。県 RD(2016): 準絶滅危惧。
参考　土中に営巣し，大規模な越冬性コロニーを形成し，多女王性（Yamane & Maeda 2008; 山根・前田 2015）。
***Vespula shidai shidai* Ishikawa, Yamane et Wagner, 1980 シダクロスズメバチ**
県内の分布　本土，大隅諸島（屋）。
参考　低地から山地まで生息。クロスズメバチに比べて山地を好む。

HYMENOPTERA ハチ目（膜翅目）

ACULEATA 有剣ハチ下目
Apoidea ミツバチ上科
Apiformes ハナバチ類

幾留秀一

解　説

ミツバチ上科は，アナバチ類とハナバチ類から成る。ハナバチ類は，幼虫期に栄養源として植物の花粉と蜜を摂取して成長する。そのために成虫の雌は，幼虫の食餌源として花粉と蜜を採集し，巣に蓄えてのち産卵するが，一部の種は造巣中の他種の巣に侵入し，既に蓄えられている花粉団子に産卵する（労働寄生性）。形態的には，体のどこかに枝分かれする毛を有することがアナバチ類との決定的な区別点で，かつ基本的には雌の後脚や腹部などに花粉運搬毛がある。ただし，最も下等なムカシハナバチ科のメンハナバチ類（*Hylaeus* 属）には花粉運搬毛がないため，花粉も蜜とともに飲み込んで巣に運ぶ（労働寄生性種にも乾粉運搬毛はない）。系統的には単系統で，アナバチ類から派生した一群と考えられており，毒針（雌のみ）は獲物を狩る必要がなくなったため，専ら護身用として機能している。生活様式は単独性から高度な社会性まで段階的な多様性に富み，特に造巣習性や社会構造にその進化段階が見られる。生態系の中では，種子植物の有力な花粉媒介者（ポリネーター）である。

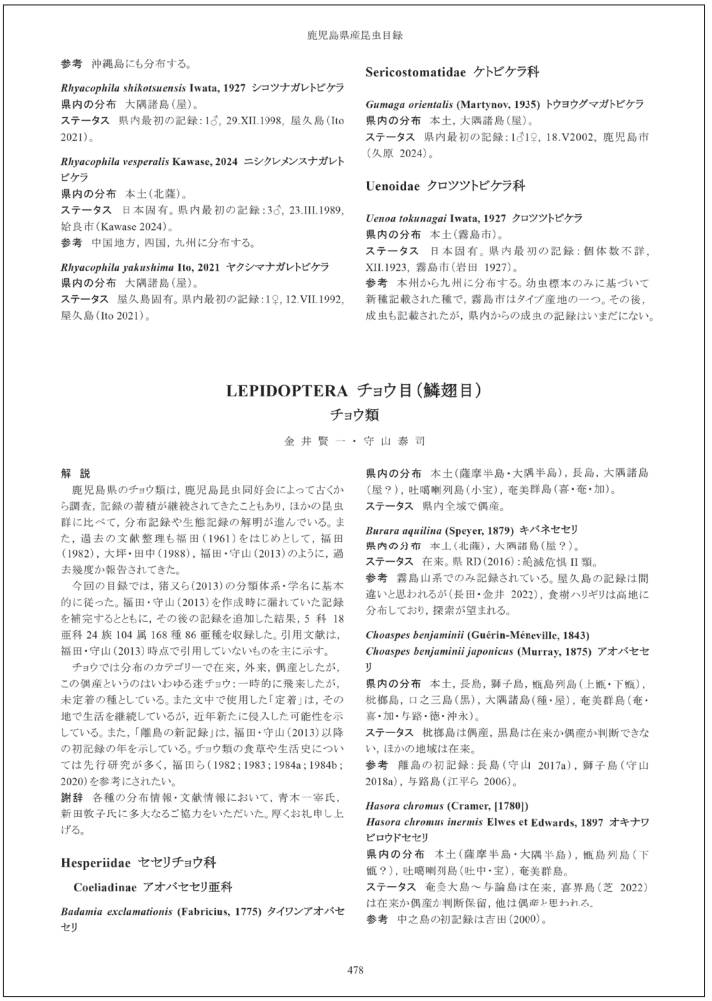
世界で 17,000 種余り（Michener 2007）の記載があり，今日すでに 22,000 種を超えたとの見解もある。これらは，Andrenidae ヒメハナバチ科，Apidae ミツバチ科，Colletidae ムカシハナバチ科，Halictidae コハナバチ科，Megachilidae ハキリバチ科，Melittidae ケアシハナバチ科および Stenotritidae（和名なし）の 7 科に分類する説が一般的で，日本産は Stenotritidae を欠く 6 科から成り，現時点（2025 年末）で 32 属 400 種（幾留 2025）が知られ，解明度は比較的高い。本県からは，ハナバチ類全体で今回 6 科 28 属 196 種の記録を確認し，日本産全種数に占める割合は 49.0%であった。地域間のハナバチ相解明度は単純に比較言及できないが，本県が生物地理学的に旧北区と東洋区にまたがっていることに鑑みれば，種数は比較的豊富になることが想像される。しかし，今回判ったことは，採集地と採集時期，また採集の頻度に偏りがあることである。特に採集地に関して島嶼地域に厚く本土地域に薄い。したがって，今後，本土各地の調査を強化することをはじめ，島嶼地域を含めてこれまでの盲点を補うような調査を行えば，少なくとも 20 種前後は増えるものと予想される。

以下の目録は，これに先立って 2024 年までの情報をまとめた鹿児島県産ハナバチ類の記録シリーズ I〜VIII（幾留 2023a, b, c; 2024a, b, c, d; 2025 および村尾・幾留 2023）をベースに，シリーズで漏れていた幾らかの情報と 2025 年の新たな情報を追加・補足したものである。なお，分類体系および学名・和名は，基本的には日本昆虫目録編集委員会（編）(2020c) に依拠しているが，その後ご記載された新種や亜属などの変更を扱った日本産ハナバチ図鑑第 2 版（多田内・村尾（編）2026）により前者を補足・修正している。また，ステータス欄の「県内最初の記録」は原則として採集データを伴った記録とし，参考欄の「発生期」および「訪花植物」は本県の記録に基づいて収録した。なお，労働寄生性種の寄主に関する本県からの記録はほとんどないが，全国的な記録は Maeta *et al*. (2015) に詳しいので参照されたい。

Andrenidae ヒメハナバチ科

Andreninae ヒメハナバチ亜科

***Andrena* (*Andrena*) *aburana* Hirashima, 1962 アブラナヒメハナバチ**
県内の分布　本土（北薩・錦江町），口之三島（黒），大隅諸島（種・屋）。



鹿児島県産昆虫目録

参考　沖縄島にも分布する。

***Rhyacophila shikotsuensis* Iwata, 1927 シコツナガレトビケラ**
県内の分布　大隅諸島（屋）。
ステータス　県内最初の記録：1♂, 29.XII.1998, 屋久島（Ito 2021）。

***Rhyacophila vesperalis* Kawase, 2024 ニシクレメンスナガレトビケラ**
県内の分布　本土（北薩）。
ステータス　日本固有。県内最初の記録：3♂, 23.III.1989, 姶良市（Kawase 2024）。
参考　中国地方，四国，九州に分布する。

***Rhyacophila yakushima* Ito, 2021 ヤクシマナガレトビケラ**
県内の分布　大隅諸島（屋）。
ステータス　屋久島固有。県内最初の記録：1♀, 12.VII.1992, 屋久島（Ito 2021）。

Sericostomatidae ケトビケラ科

***Gumaga orientalis* (Martynov, 1935) トウヨウグマガトビケラ**
県内の分布　本土，大隅諸島（屋）。
ステータス　県内最初の記録：1♂1♀, 18.V2002, 鹿児島市（久原 2024）。

Uenoidae クロツツトビケラ科

***Uenoa tokunagai* Iwata, 1927 クロツツトビケラ**
県内の分布　本土（霧島市）。
ステータス　日本固有。県内最初の記録：個体数不詳，XII.1923, 霧島市（岩田 1927）。
参考　本州から九州に分布する。幼虫標本のみに基づいて新種記載された種で，霧島市はタイプ産地の一つ。その後，成虫も記載されたが，県内からの成虫の記録はいまだにない。

LEPIDOPTERA チョウ目（鱗翅目）

チョウ類

金井賢一・守山泰司

解　説

鹿児島県のチョウ類は，鹿児島昆虫同好会によって古くから調査，記録の蓄積が継続されてきたこともあり，ほかの昆虫群に比べて，分布記録や生態記録の解明が進んでいる。また，過去の文献整理も福田（1961）をはじめとして，福田（1982），大坪・田中（1988），福田・守山（2013）のように，過去幾度か報告されてきた。

今回の目録では，猪又ら（2013）の分類体系・学名に基本的に従った。福田・守山（2013）を作成時に漏れていた記録を補完するとともに，その後の記録を追加した結果，5 科 18 亜科 24 族 104 属 168 種 86 亜種を収録した。引用文献は，福田・守山（2013）時点で引用していないものを主に示す。

チョウでは分布のカテゴリーで在来，外来，偶産としたが，この偶産というのはいわゆる迷チョウ：一時的に飛来したが，未定着の種としている。また文中で使用した「定着」は，その地で生活を継続しているが，近年新たに侵入した可能性を示している。また，「離島の新記録」は，福田・守山（2013）以降の初記録の年を示している。チョウ類の食草や生活史については先行研究が多く，福田ら（1982；1983；1984a；1984b；2020）を参考にされたい。

謝辞　各種の分布情報・文献情報において，青木一幸氏，新田敦子氏に多大なるご協力をいただいた。厚くお礼申し上げる。

Hesperiidae セセリチョウ科

Coeliadinae アオバセセリ亜科

***Badamia exclamationis* (Fabricius, 1775) タイワンアオバセセリ**
県内の分布　本土（薩摩半島・大隅半島），長島，大隅諸島（屋？），吐噶喇列島（小宝），奄美群島（喜・奄・加）。
ステータス　県内全域で偶産。

***Burara aquilina* (Speyer, 1879) キバネセセリ**
県内の分布　本土（北薩），大隅諸島（屋？）。
ステータス　在来。県 RD (2016)：絶滅危惧 II 類。
参考　霧島山系でのみ記録されている。屋久島の記録は間違いと思われるが（長田・金井 2022），倉樹ハリギリは高地に分布しており，探索が望まれる。

***Choaspes benjaminii* (Guérin-Méneville, 1843)**
***Choaspes benjaminii japonicus* (Murray, 1875) アオバセセリ**
県内の分布　本土，長島，獅子島，甑島列島（上甑・下甑），枕崎島，口之三島（黒），大隅諸島（種・屋），奄美群島（奄・喜・加・与路・徳・沖永）。
ステータス　枇榔島は偶産，黒島は在来か偶産か判断できない，ほかの地域は在来。
参考　離島の初記録：長島（守山 2017a），獅子島（守山 2018a），与路島（江平ら 2006）。

***Hasora chromus* (Cramer, [1780])**
***Hasora chromus inermis* Elwes et Edwards, 1897 オキナワビロウドセセリ**
県内の分布　本土（薩摩半島・大隅半島），甑島列島（下甑？），吐噶喇列島（吐中・宝），奄美群島。
ステータス　奄美大島～与論島は在来，喜界島（芝 2022）は在来か偶産か判断保留，他は偶産と思われる。
参考　中之島の初記録は吉田（2000）。

＊見出しに学名（種または亜種）と和名，「県内の分布」は各産地，「ステータス」には，在来か外来か，ふつうか稀かの生息数の多寡，固有である場合にはそれに言及，国や県のレッドデータではそのランク，県内の最も古い採集記録と文献の引用など。「参考」欄の生態情報は鹿児島県における観察記録を示す。最近まで使われてきた不適切な学名（シノニムを含む）や，過去や現在の文献で使用されている別の和名を知りうる範囲で掲載した。